

串本の海をまもる、地元「民・官」の協力した取り組み

串本・みんなの海をまもろう会

会長 堀口 一志（NPO法人ガイアライン理事）

事務局長 博多 厚司（串本町商工会長） ○事務局 尾高 伸一郎（和歌山県東牟婁振興局串本建設部）

1. 活動方針・目的

串本の海を愛する人々が一体となり、海をキレイにする活動を通じて、日本一すてきな串本の海を守りつづけることを目的とする。（以前まで海岸清掃の取り組みは町内各地で行われていたが、より協力できる体制をつくろうということで設立。

平成21年5月に設立された民・官協力による任意団体）

2. 活動内容(H21年度)

- (1) 海岸清掃・・・地域住民、地域団体、行政で協力して清掃活動を行っている。（2回実施）
- (2) 海ごみ勉強会・・・海のごみ問題に詳しい人物を招き、海のごみの発生原因や、現状、今後の取り組みの可能性などについて学んでいる。（2回実施）
- (3) 環境保全啓発を目的としたイベントの開催・・・海のごみをアートに活用するコンテスト、清掃後の海でサーフィンスクールなどの開催。

3. 他の活動団体の参考となる事例

- 地元行政が事務局員として、清掃ボランティアの呼びかけを行ったことにより、活動履歴のない団体であるにもかかわらず、設立初年度から参加者を非常に多く募ることができた(清掃参加のべ270人30団体)
- 行政に活動を盛り上げる方法について相談を働きかけていたところ、講師を招くための補助制度の存在を知り、活用できた。
- 21年度から環境省の海岸保全に関する事業がスタートしたことにより、この一つがきっかけとなり、地域海岸を保全する事業や機会が広がった。
- 会で設定した清掃日の前後に、学校関係の清掃活動があったことを後で知り、スケジュール調整の不備を反省した。

4. 今後の課題

黒潮による豊富な漁業資源の海、ラムサール条約に登録されたサンゴの海、またオスマントルコの歴史遺品が次々と発見される海、串本の“海と地域の魅力”は切り離せない密接な関係である。海岸をきれいにする目的だけではなく、地域資源を磨くという目的をもって清掃活動を行っている。まだ設立されて間もないので、この当初の方向付けが非常に大事になってくると思う。海岸清掃団体が終わらないためには、今どうしていくべきか。また、環境問題などに取り組む大学生などとの連携を持ちたいが、地域に大学がないため、交流の機会を作ることができていない。今後、若い学生の力がほしい。

串本の海をまもる 地元「民・官」の協力した取り組み



串本・みんなの海をまもろう会 和歌山県東牟婁郡串本町

発表者 堀口一志 博多厚司 尾高伸一郎

活動の背景と目的

■ 背景

串本の海岸は県内でも一番長く、台風や、大雨、黒潮や紀伊水道の流れから漂着する多くの海ごみが問題となっていた。



■ 目的

地域の住民と行政が一体となって、日本一すてきな海をまもり続けることを目的に結成された。



串本の海の魅力



- 豊富な漁業資源
- ラムサール条約登録
- トルコの遺品が眠る
- ダイビング
- サーフィン
- 釣り

など...

活動内容①



■ 海岸清掃

一年に2回、会で主催の清掃を実施、その他地域の海岸清掃にも協力。



■ 海ごみ勉強会

講師を招き、海ごみの発生原因、今後の取り組みの可能性について学習。

活動内容②



■ 環境保全啓発の イベント

『海のごみをアートにしよう』
アートワークショップ
アートコンテスト



『サーフィンスクール』
地元サーファーによる初心者
のためのサーフィンスクール

参考事例

プラス面

- 清掃活動の呼びかけの工夫
- 行政の補助金の利用
- 環境省による関連事業の実施

マイナス面

- 清掃のスケジュール調整の重要性
- イベントの参加者数

課題

■ 長期的な活動の実施

長く楽しく効果的に

■ 若い世代の取り込み

学校関係との協力

■ 新しい取り組み

故郷の魅力再発見

■ 行政担当者の異動

連携の継続

まずは近い将来の目標

■ 地元協力団体の拡大

海岸清掃を行っている地域団体
や住民の輪を広げ、より効果的に
清掃を行う

■ 広域(町外)での連携

広域の連携を取り、より高い意識
の啓発の場をつくる



海を中心とした人間のつながりを深め

地域を元気にする！